

区分・種別	重要文化財(彫刻)		
名 称	もくぞうあみだによらいざぞう 木造阿弥陀如来坐像 1躯		
所 在 地	松山市南江戸		
所 有 者	大宝寺	管 理 団 体	
指定年月日	明治34年3月27日		
解 説	この坐像は、国宝大宝寺本堂に安置されている。大宝寺は、松山市西部の西山南麓にあり、真言宗^{ぶざんは}豊山派の寺で、大宝年間（701～704年）の創建と伝えられている。像高68.2cm、一木造で、豊かな体軀を端正な法衣^{ほうえ}に包み、秀でた眉、静かな半眼、しっかりと結んだ口元は、内なる力を抑え、久遠の真理を求める冥想の姿である。 刀法は深く、貞観様式を多く盛った作風で、藤原時代初期の作とみられる。		

